

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

85

2002.12

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり (Peace) 健康づくり (Health) を担う人材をつくる (Human Development) 運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E mail：phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL：http://www.kisweb.ne.jp/phd
定価：100円

- ソディつうしん
「やっと実現！2つのグループの出会い」・・・ P.3
- 研修レポート・・・ P.4-5
- フォローアップレポート
「青春時代へタイムスリップ」・・・ P.6



インドネシア、西スマトラ州タベ村 撮影 FUJINO T.

物干ざおをかついだ親子がやってきたと思ったら
それはサトウキビ。
お父さんは軽く片手で。
二人の子供は両手で慎重に。
笑顔を見せる余裕はなさそう。

東西南北 問題解決 取組日記

私たちの税金の行方

8月〇日

ここ数年の恒例、夏のスマトラ行き。シンガポール経由で西スマトラ州パダン市のタピン空港に降りる。ここは戦時中日本軍が使った空港で滑走路も短く、飛行機の大きさにも制限があり、山を背にしているため、片側からしか降りられないと聞いた。そして今、日本の援助を受けて新空港が建設され始めている。研修生の村からの帰り道、その現場に立寄り、そこで働く日本のコンサルタント会社の人の案内を受けた。国際協力銀行（JBIC）からの融資額は120億円で、2005年の完成を見込んでいる。完成すれば南北双方からの発着が可能になり安全性が増し、滑走路が伸びることにより大型機が就航できる。それによって多くの旅客を運び、この地域経済が活性化され、観光客の増加も可能になる目算だ。



滑走路予定地で説明を聞く
スタディーツアーメンバー

ここから車で一日行ったところに今、住民3,861人が原告となり、日本政府を相手どり東京地裁に訴え、問題となっているコトパンジャンダムがある。ここは日本の312億円の有償資金協力で96年に作られた。ところが、水没する地域住民約23,000人の移住先の環境が劣悪で生活困難な状況におかれ、また自然環境も破壊されてしまったという。現状回復をインドネシア政府に勧告することと、一人当たり500万円の損害賠償を求めている。全国各地で現地住民を迎えての集会が開かれ、神戸の会には私たちが参加した。せつかくの援助が地域で喜ばれず逆に迷惑をかけているようだ。新しい

空港の計画がこのようなことにならないように、チェックしていきたい。地元パダンの法律NGOで聞いたところ、建設予定地の農地の買収を巡って若干のトラブルはあるが、今のところ大きな問題は出ていないとのこと。ただし、今は無くても、今後、また空港完成後、問題が出てくることもある。

空港建設地に寄る前に滞在していた研修生の村、パシルパルーにも外国の援助による港建設の話が持ち上がっている。概ね村人も賛成のようであるが、これが実現すると、村が大きく変化することが予想される。それは必ずしも良いことばかりでは無いかもしれない。この村の研修生、アリさん、サムスアリスさん、ハスマヤニさんには日本の各地で社会問題の現場を訪ねたことを思い出し、新しい計画にはじっくり対応したほうが良いと助言してきた。

一度はODAをめぐる不正を反省し無償資金協力から撤退と報じられた商社が、今後気をつけるけど、やっぱりやりますとのこと。誤報ではなく、会社が方針を変えたようだ。どうしてなのか、一社の判断だけではなく業界全体の意向が働いたのだろうか。ODAを好ましく使っていくためには、政府だけでなく、そこに関わっていく企業の姿勢も大きな要素である。企業も不況で大変とは思いますが、だからといって誰かが困ることにつながる仕事で稼いではもらいたくない。

グローバル化が マオイストを刺激する

10月×日

ネパールが落ち着かない。今日のニュースでは国王が内閣を解任し、直接統治を表明したと言う。96年から反政府武装勢力ネパール共産党毛沢東主義者（マオイスト）の活動が治安の悪化を招いている。昨年6月の王族殺害事件で前国王が亡くなり、それも政治、社会の安定を欠く原因となっていた。町に比べ、地方でマオイストは勢力が強い。

12人の研修生を帰して

いる私たちとしても、その政情の行方は彼らの生活を左右するので無関心ではいられない。研修生の何人かは村にいたのでフォローアップに出かけるのにも支障が出る。

第1期生パラト・ピスタさんは帰国後、カブレ郡でNGOを作り、村人の生活改善に取組んでいる。その活動の一つの教育普及を、彼が学んだ兵庫県篠山市の「篠山ナマステ会」の皆さんが支援をしている。具体的には低コストのタマンの人々の村の学校運営を支援しようというもので、ナマステ会の支援を中心に小さな学校ができていく。この学校の完成を祝う式を行い、篠山の中・高生との交流をしようとの計画が、安全を考え2度企画されたが流されていた。この夏は生徒の参加をはずし、大人だけで完成式だけでも行うことになり、8月始めに同行した。

もともと観光シーズンはヒマラヤの見える秋、冬であり、夏場は海外からの訪問は少ない時期ではあるが、治安悪化がさらに訪問客減少を呼んでいる。滞在したゲストハウスでも商売あがったりと聞かされ、カトマンズ市内でも以前と比べ外国人観光客を見かけることは少なかった。観光収入が貴重な外貨獲得手段であるこの国ではこの状況は痛い。にもかかわらず、私にはカトマンズのマチの様子が見る派手になったように感じられた。道行く車も、店の看板も新しくなり、店の構えもモダンになってきている。外国商品も多く並んでいる。国全体の経済は思わしくなくとも、基本的には自由経済。前号で報告したビルマと違い政府による経済政策を越えてグローバル化は確実に入り込んでいる印象を持った。

持てる人と持てない人との差が広がっている。これがマオイストを支持する人々を生む原因のひとつなのかも知れない。

町を中心に入り込む経済のグローバル化の勢いは必ずしも幸せを保証するものではない。村での教育活動の中身が大切になってきていると思う。



空港に貼り出されていた
マオイスト指名手配ポスター

総主事代行 藤野達也



やっと実現！ 2つのグループの出会い

交流の目的は

9月2日から7日まで、カレン布グループの村シードンチャイに出かけて来ました。その目的はPHD協会がやりとりをしている2つのカレン布グループとミーティングを開くことでした。私たちは毎年年末にそれぞれのグループを訪問し、買い付けと話し合いをしてきましたが、チェンマイ県にある“ムシキーがんばる布のグループ”（以下ムシキー）とメーホンソン県にあるグループ“ルチョコ”は2日かかる距離にあり、また村のお母さんが外泊、しかも何日も家をあけることは難しく、今までで話をするという機会がありませんでした。グループはそれぞれ問題を抱え、同じ問題があれば、そのグループ特有の問題もあります。その問題を解決するためにはどのように取り組めばよいのか。そこで2つのグループが出会い、お互いの経験や技術を交換し、同じ問題は一緒に考え、異なっている問題に対してはお互いにアドバイスをする“交流ミーティング”を計画しました。

今回はルチョコの中心の村であるシードンチャイをムシキーメンバー6名が訪問しました。日本から裁縫の指導者である芦田安紀子さんと通訳としてチェンマイ在住の青井悠子さんと同行していただきました。

誰のためのミーティング？

今回のミーティングはムシキー、ルチョコ、PHDのためのものであり、みんなで作り上げるという意識を持つことを大切にしました。そのひとつの例が予算のことです。2つのグループを紹介してくれた、北タイのカウンターパートであるカレンバプテスト会議のサニーさんに加え、ムシキーとルチョコのメンバー、PHDで話し合いを持ち、それぞれができる経費

負担を考えました。ムシキーとPHDが車代を半分ずつ、ルチョコがシードンチャイでのムシキーとPHDの滞在費（食事を含む）を負担しました。

一番の問題は「売れない」

1日目はお互いの村とグループの紹介をしました。2日目は自分たちのグループの良い点と悪い点、その改善策を話し合いました。3日目は一番問題だと思っていることを挙げ、この問題をより掘り下げ具体的な対策を考えました。また年末の注文と日本から考えていった新作カバンのデザインについて話し合いました。そこで芦田さんから型紙や作り方の順序の説明があり、みんなでミシンを使ってカバンをひとつ作り上げました。

3日目の話し合いの中で、一番問題だと思っていることは2グループとも“売れない”ということでした。売るためにはどのようにしたらよいのか、自分たちに何ができるのかを考えました。「新しい製品やデザインを考え、もっと複雑な織りに挑戦することで売れる商品を開発していこう」、「上手な人は下手な人に教えてもっと良い商品を作っていこう」、「新規の売り先として市場で売れそうな所を探してみよう」というアイデアが出ました。

話し合ったことを模造紙に書いて発表し、意見交換をする形で進みました。2グループ36人のメンバーがかなり活発に発言を繰り返して、自分たちで意見をまとめていきました。



初対面でもカレン語で和気あいあい

来年もぜひ！

今回のこのミーティングでは問題に対して実際に行動に移せる具体的な考えが出てきました。そしてお互いに刺激を合い、グループを良くしていこう、良い製品を作っていこう

うという向上心が出てきたように思います。お互いの考えを確認し合えたことも大きな成果です。

Aさん：「初めてお互いに来てみて、2グループが一緒に問題について考えたり、アイデアを出し合うことが重要であると気づいたわ」

Bさん：「来年もぜひやりましょう」

Cさん：「1年半後の4月はどうでしょう。1年半あれば出てきたアイデアを実行に移せるよ」

Dさん：「4月はお祭りがあるから忙しいわ」

Eさん：「じゃ、来年の9月にしましょう」

Fさん：「次はルチョコがムシキーに行くわ」

全員：「また1年後会いましょう」ということで、また来年2グループのミーティングを開くことになりました。



幼なかった顔がちょっと大人に
(中央がブンシーさん)

頼もしいブンシーさん

グループから裁縫の先生を村に呼ぶお金をPHDに出してほしいという提案が出た時、ルチョコのメンバーで元研修生のブンシーさん（18期生）がメンバーに「いつもPHDに頼るのは良くない。PHDはお金を出す団体ではないし、簡単にお金を出すことはできない。PHDも日本でカレンの布を売るのがどれだけ努力をしているか。1枚売るのがどれくらいしゃべらないといけないか」という話をしました。もっとお互いの考えを交換し合うことが必要だと思ったと同時に、ブンシーさんの発言に頼もしさを感じました。ブンシーさんは得意の日本語を活かし、カレン語と日本語の通訳もしました。帰国してから1年半、グループとPHDの橋渡しの役割をしっかりと担っています。

(古本妃留美)

20期生 8月中旬～10月初旬

ダルミアティス (通称ミミ) さん (インドネシア、女性、31才)

- 洋裁・保健衛生・保育研修—
- 高橋武子 (兵庫県三木市)
 - 光田弘・和子 (滞在/神戸市)
 - 大森昌也 (兵庫県和田山町)
 - 芦田安紀子 (兵庫県芦屋市)
 - ささやま保育園 (兵庫県篠山市) 丹南健康福祉センター (同上)
 - 山岸輝雄、谷田治 (滞在/同上)
 - 岩下富子、柳田恵子 (アレンジ/同上)
 - くらふと・ぎやらりー多田 (兵庫県芦屋市)
 - 高砂市福祉部健康課 (兵庫県高砂市) 高砂健康福祉事務所 (同上)
 - 樋野泰弘・素子 (滞在/同上)
 - 神吉道子 (アレンジ/同上)
 - 岩佐康子 (兵庫県姫路市)

<敬称略>

「なぜお年寄りだけが…？」

篠山市や高砂市で老人ホームや一人きり、もしくはご夫婦だけでお年寄りが暮らしているお宅を訪れたミミさん。長生きされているお年寄りの多さにびっくりしつつも、どうして家族と一緒に暮らさないのか、という点に強く疑問を感じています。

ミミさんの出身地域である夕べ村では、お年寄りはもちろん兄弟夫婦とも一緒に暮らしている場合が多く、お年寄りだけであるケースは考えられません。例えばミミさんの場合、ミミさんの両親、妹夫

4月に来日してから、早いもので半年が過ぎました。日本語がかなり上手になってきた20期生の3人は、それぞれの研修に励みながら、最近では一見豊かに見える今の日本社会に対する疑問も感じ始めているようです。

婦、ミミさんの家族を合わせて10人が隣近所に生活しています。

「3歳と6歳の子どもを残してきて寂しくないですか」とよく聞かれるのですが、その度にミミさんは「家族が多いし、村の人も面倒を見てくれるので心配ない」と答えます。

毎日のように「親が子どもを虐待した」、「未成年者が大人を殺した」といったニュースが流れたり、都会のマンションなどでは、隣に住んでいる人の顔さえ知らない…。保健衛生や育児に関する情報やサポートはかなり充実しているのに、満足に子どもを育てられない若い母親たち…。

ミミさんの眼は、今の日本社会が抱えている“歪み”のようなものを浮き彫りにしているのではないのでしょうか。私たちが失ってしまったものの大きさを感ぜずにはいられません。



リハビリ教室での一コマ (篠山市)

パシルバルー アリさん (5期・87年度)

12歳、6歳、5歳の3人の子供がいます。漁業協同組合では会計を担当し、今年7月からは町議会の議員もしています。町議員数は20人で、村長から任命され、任期は5年だそうです。郡や州と掛け合い、3月に50人が無利子でお金を借りることができました。使用目的は漁業のみで、商売には使えないそうです。

川の河口にできる新しい港は来年から建設が始まります。川底を掘り下げテトラポットで岸壁を作り、港までの道も広がるそうです。様々な影響が今後出てくる可能性があるのではないかと思います。

サムスアリスさん (8期・90年度)

1ヵ月前に600万Rpでヤマハのエンジン (80馬力) の船を購入。11人とともに漁に出ています。今年1～3月は不漁で苦しかったけれど、最近サバがよく捕れるようになってきました。10人の子供のうち、1人を病気で亡くしてしまったのですが、近所の家族の母親が亡くなり、父親は失踪したために残された5人の子供を彼が引き取り育てています。

ハスマヤニさん (10期・92年度)

4歳 (男)、3歳 (女)、1歳 (男) の3人の子供がおり、パダンで月～金の午前中は日本語を教え、午後は同じ事務所で事務を手伝っています。

研修生レポート

スウェウインさん (ビルマ、男性、24才)

- 農業研修—
- 大森昌也 (兵庫県和田山町)
 - 白浜松喜 (島根県弥栄村)
 - 日高久志 (アレンジ/島根県瑞穂町)
 - 真柴三幸 (兵庫県南光町)

<敬称略>

牛が耕耘機に代わると…

前号で、「日本では農業をする若い人が少ない上に、食料の半分以上を外国からの輸入に頼っている」という危うい状況をスウェウインさんが指摘したことを取り上げましたが、今回はその続き—。

「日本の農業や生活にはお金がたくさんかかり過ぎていると思います。1ヵ月にそれなりの収入があったとしても、農機具が故障したり、家畜が病気になったりすると赤字になってしまうことがあると聞きました。それでも農業をしていれば、自分の食べるものは確保できるけれど、町に住んでいる人たちはお金がないとご飯さえ食べることができません。私の村では車やエアコンなどはないけれど、食べ物に困ることはあまりないし、まだそんなにお金が必要になる生活でもありません。」

それでも、確実に近代化の波は彼

の村にも押し寄せてきています。村では今まで牛を使って田んぼや畑を耕していました。5～6人の村人が協力して、色々な話をしながらのんびりとやっていたそうです。それが、近年村に数台の耕耘機が入ってくると、持っている人は一人で作業をするようになり、少しずつ村人同士の会話が減ってきたとスウェウインさんは話しています。

「村の人はだんだん自転車ではなくてバイクが、ラジオではなくてテレビが欲しいと考えるようになっていきます。その気持ちは自分にもよくわかるけれど、お金持ちになることが本当のDevelopment (発展) ではないと思います。」



一面の小豆畑を手で草刈り (弥栄村)

帰国研修生短信 インドネシア

1円=70Rp

保健衛生のグループのメンバーですが、働いているため活動にはあまり参加できていません。しかし、勉強会にはできるだけ参加しています。

アイルバンギス

ベティさん (6期・88年度)
食堂経営。客は1日50人程で、売り上げは300万Rp。最近はや当持参の漁師が増えたため、客が減っています。また大きな外国のトロール船が魚を根こそぎ捕っていくため、この地域での漁業自体が年々難しくなっています。10歳 (女)、8歳 (男)、5歳 (男) の3人の子供がいます。

ラッドさん (12期・94年度)

大学を8月末に卒業しました。卒

業後はパダンの大学で教えることができると考えています。

タベ ダスウィルさん (17期・99年度)

米、すいか、さとうきび、唐辛子を作っており、これからはトマト、とうもろこしを作る予定です。去年8月、アフダールさん (00年度) と一緒にメンバー20人のグループを作り、米、唐辛子、さとうきび、ねぎを有機栽培で作っています。ミーティングは月2回、各2時間しています。

近くの公立小学校は生徒数が多過ぎて勉強しにくいので、3年前に前村長と、アフダールさんのお連れ合いの3人で、小学校を作りました。現在1年生から3年生の計60人の生

スラチ・パティスティクンさん (タイ、男性、29才)

- 農業研修—
- 金谷昌高・智之 (兵庫県大屋町)
 - 中川克敏 (島根県川本町)
 - 日高久志 (アレンジ/島根県瑞穂町)
 - 吉田吉彦 (兵庫県水上市)
 - 松尾誠 (兵庫県篠山市)

<敬称略>

「ゴミがいっぱい！」

研修先の農家の方々が長年の経験に基づく知恵を生かして有機農業に取り組んでいる様子に感心しきりのスラチさんですが、スウェウインさんと同様、日本の農業に対して色々気になることも出てきているようです。

例えば、農機具を含め、機械系のゴミが多いこと。郊外や山村の道を走っていると、時々山積みされた農機具や自動車等に出くわします。中古品として、それこそタイや

インドネシア等へ売られていくものもありますが、不法投棄されているケースも少なくありません。「日本人はお金持ちで新しいもの好きですね。でも、ゴミがいっぱい！」

話変わって、「テレビを見るようになる家族の会話がなくなるよ」と松尾さんに教えてもらったスラチさん。次の日の夜にみんなでテレビを覗いていたときにすかさず、「私はテレビ、お父さんもお母さんもテ



ミニトマトの収穫中 (大屋町)

レビを覗いています。話がないですねー」と言ったためみんなで大笑いになったそうです。

そんなスラチさんのタイの家にもすでにテレビや冷蔵庫等の電化製品が並んでいます。今一番欲しいものはクルマ。村人のほとんどは農業・化学肥料漬けの農業をしています。

何事にもマイペースな彼の人柄によるところが大きいと思われるが、「彼の働き振りでは、とても手間のかかる有機農業をやっているのかギモン」という指導者からの厳しい声があります。また一方で、「農作業の合間に、近所の子どもの散髪をしたり、大工仕事をしたり、川で漁をしている今の暮らしの方が、彼の目指す未来より優位性があるではないか」との意見も…。

残りの半年で皆さんと話し合っていきたいテーマの1つです。

(納堂邦弘)

徒がここで勉強しています。授業内容は公立の小学校よりもイスラム教の勉強がやや多いそうです。先生は3人おり、給料は村人の献金によってまかなわれています。

アフダールさん (18期・2000年度)

昨年10月の村長選挙で選ばれた夕べ村の村長になりました。任期は5年。去年飼っていた鶏を売り、去年12月に生後5ヵ月の雌鶏を55羽 (3万Rp/羽)、生後6ヵ月の雄鶏を5羽 (4万Rp/羽) 購入。卵は1週間に150個を近くの市場で1個750Rpで売っています。鶏の餌は自分でも米ぬか、とうもろこしを使って餌を作っていますが、2ヵ月に1回50kgを13万Rp

で買っています。

アルウィさん (19期・2001年度)

帰国後、子牛を2頭 (1才、300万Rp/頭) 購入。田んぼには友人からもらった食用の魚がいて、大きくなったら売ります。今は唐辛子、さとうきび、とうもろこしを有機栽培で作っており、トマトとかぼちゃの苗も作っています。今後は鶏を20羽くらい飼いたいそうです。また、メンバー20人の農業グループを作り、週1回メンバーのところで堆肥作り等の協同作業をしています。今後は、グループで牛の草や野菜を作ったり、牛の貸出をしたいそうです。

フォローアップ レポート

2002.8 インドネシア

この夏のスマトラへのツアーには、兵庫南光町の酪農家、真柴さんが同行。村に弟子を訪ねた様子を報告していただきました。

研修生3人との再会

空港を出ると3人の研修生の懐かしい顔が見えた。胸にジンときて目に熱いものが浮かび3人の研修生の手を握り、少しの間声が出なかった。ダスウィルさんは、タベ村から始めて来た研修生です。彼は怖がり屋で「怖い！怖い！」と言って、牛の中に入って搾乳はできなかったが、分からない事はノートに書いて、夜、食事が終わってからいつも勉強していた努力家のまじめな青年です。

2年前にアフダールさん(32才)が、私の家に研修に来た時、「私、村長になります！お父さん、いつ来ますか？」何回も繰り返すので、仕方なく「アフダールさんが村長になったら行きます」と約束をしてしまった。多分村長になるには若すぎてもっと年がたってからと思っていたから。

アフダールさんは、去年の10月、投票者600人のうち300人の支持を得て村長になった(立候補者5人)との事、改めてアフダールさんに「村長になられ、おめでとう」と硬い握手、「お父さん来てくれてありがとうございます」硬い硬い握手となった。

アルウィさんは、仕事の最中でも「お祈りの時間です」と言って必ずお祈りを始める敬虔なイスラム教徒です。ジハード(聖戦)とは自分自身との戦い(戒め)だと教えてくれた。彼は私にとって命の恩人でもあります。



ダスウィルさんの牛の体温を計る

青春時代へタイムスリップ

真柴 三幸

と申しますと、彼が研修に来た時、私がコンパインの運転を誤り、ひっくり返って危うく下敷きになろうとしたところを彼が支えてくれたので、下からはい出せたのです。心の優しい勇気ある彼に感謝しています。思い出多い3人の研修生に再会できて最高の喜びです。

タベ村にて思うこと

農道はあぜ道しかない。集落全員の力を集めて、相互扶助の精神で車の通る道を作る事によって、集落は飛躍的に発展するでしょう。日本の農村では、本当の相互扶助の精神がなくなっているのではないのでしょうか。相互扶助の精神、それは稲作文化なのです。米を作る為には、水路、農道、水田を作らなければいけないのです。それは個人一人の力ではできません。集落を作り、村人たちの協同の力で水田は成り立っているのです。

村とは運命共同体なのです。しかし農業が専業化し、兼業農家と非農家の人が多くなり、混住社会となって相互扶助の精神が薄れて、村が破壊されていくのです。表敬訪問した西スマトラ州議会の議長さんの話の中に、大分県の一村一品運動の話が出てきたり、茶畑、キャベツ畑などタベ村の近くにも専業化の波が押し寄せて来ているようです。これから



研修生の作った堆肥を見る真柴さん(右)

はしないでしょうか。この背景は彼らの親せき一族が、村の実力者ということではなかったかと思う。このグループを成功させる為にも、真柴流グループ活動論を言えば、「グループをまとめるリーダーはグループ員一人一人の心をつかむ」「このグループ員は何を求めているのか、何に困っているのか、分かるまで話し合いをする」「グループ員一人一人が、活動できるような環境を整える」です。

稲を刈り取った後、牛、馬、鶏、アヒルを水田に放牧して草を食べさせ雑草が生えさせない事は大変良い事だと関心しました。「畜産なくして農業なし」昔日本であった有畜農家です。以前の日本の農村では、どこの農家でも家の日当たりの良いところに牛、鶏を飼いながら、その糞を堆肥にして畑に入れていました。家畜の餌も残飯とか畑の草でほとんど間に合せていたものです。ところがだんだん農業が専業化していき、家畜を飼わなくなり、有機物が畑に入らなくなり、便利の良い化学肥料のやり過ぎにより、農地の微生物が死に、土が痩せてしまい、農作物が病気にかかりやすくなり、農業を多量に使うようになって、農業の被害が出始めた。その為、有機物を畑に入れなければいけないということになり、有機農業という言葉が最近できたのです。

これからタベ村も農業の機械化が進み、家畜がいなくなり専業化され

た農村になっていくだろうと思われまます。専業経営は一見経済効率が良いように思われますが、市場価格の変動に大きく左右されます。しかし、今まで通り、稲作、さとうきび、唐辛子、果樹、養鶏、アヒル、牛、馬を組み合わせる農業、これを有畜複合農業と言いますが、有畜複合経営は、水揚げが少なくても、価格の変動の影響を分散でき、いつも安定した現金収入が得られるという利点があります。有畜複合農業の一番良い所は、真の循環農業ができる上、地球に優しい為に専業農家よりコストを下げられるのではないのでしょうか。

農業の基本は、腐植土の多い肥えた土を作ることです。このことは、世界中どこに行っても、どんな時代でも同じです。その地域にある有機物を使って、その地域で最大限発揮することのできる土着微生物を利用

して醗酵させ、良い堆肥を作り土地に還元することです。良い堆肥を作る技術は、自分達が何回も何回も失敗を繰り返しながら、その地域にあった技術体系を作り出していかなければならない。それが自立ということです。ダスウィルさんが、唐辛子の根元に竹筒で虫よけを考えたようにです。

研修生と過ごした6日間、彼らを見ていると40数年前の自分が思い起こされます。同年代の友達は全部都会へ出てしまい、一人ポツンと取り残されたような気がした。その中で農業とは何か？農村とは何か？をよく自問し、またいろんなことをやってみました。しかし、時代の流れに私は流されてしまったような気がします。成功もし、反省もしました。その観点から私の経験や夢を、若い世代の研修生に託したい。

国内研修生紹介



鴨川 佳枝さん
西宮市在住・24才

はじめまして。10月から来年の3月までPHDで研修させていただくことになりました。「自分と同じ人は世の中にいないはず、ならば私にしかでき

海外の人材だけではなく、国内でも平和と健康を担う人を育成しようと95年から実施している国内研修生制度。今年で7人目になります。

ないことが絶対に何かあるはず！」とそれを今この研修を通じて探しているところです。6ヵ月後が楽しみです。ここPHDは人との出会いを通して成長していくことが沢山あると思います。皆様との出会いを楽しみにしています。よろしくお祈り致します。

PHD NEWS

◆田中お父さん安らかに

85年から研修生を受け入れ、農業指導をしていただき、また毎年のように暮れのタイツアーに参加され、村の人たちからも慕われていた、兵庫県波賀町の田中五郎さんが8月20日お亡くなりになりました。昨年暮れのツアーにも参加されましたが、今年6月からご病気で入院中でした。研修生のお世話だけでなく、地域へPHDを紹介していただくなど、多大な貢献がありました。これまでのご支援にあらためてお礼を申し上げ、ご冥福をお祈りします。

◆今年も感謝、自動車総連より福祉カンパ
11月7日、東京都港区の自動車総

連本部において2002年福祉カンパの贈呈式がありました。当会から森本章夫理事が出席し、組合員の皆さんの協力を受け取りました。11月20日には研修生も本部を訪ね、お礼と研修報告をする予定です。ありがとうございます。

◆会費・ご寄託状況

2002年8月	121件	1,578,741円
9月	105件	1,108,762円
	226件	2,687,503円

以上の通り、皆様より多くの会費とご寄附を頂きました。厚くお礼申し上げます。今年も年末募金が始まりました。皆様の、より一層のご協力をお願いいたします。

第21期生 ホストファミリー募集!

2003年4月に来日予定の研修生3名の滞在家庭を募集します。

期間：2003年4月から1年間。始めの6週間は毎日、以降月平均7日程度。
場所：神戸まで1時間程度で通える範囲。
経費：当会規程の食費、滞在費をお支払いします。

詳しくは事務局までお問合せ下さい。

来日する研修生

エルリナさん(29才・女性)
インドネシア・西スマトラ州



タベ村から、女性の研修生としてはミミさんに続く2人目です。

ケン・タ・ウェさん(21才・女性)
ビルマ・マンダレー管区



イエボ村から、スウェウィンさんに続く2人目の研修生。

*もう一人、フィリピン・ヌエバエシーハ州・ガバルドンからエディさん(99年度)と一緒に活動してくれる研修生を招く予定です。

◆西日本研修旅行

2003年1月中旬から2週間の予定で、第20期生の西日本研修旅行に出かけます。今回のコースは次の通りです。

神戸-宮崎-鹿児島-熊本-大分-福岡-山口-広島-愛媛-香川-岡山
詳しくは事務局までお尋ね下さい。

◆お待たせしました。「20周年記念事業報告書」できました。

行事からまる1年、当日の報告書が完成しました。B5版70頁。定価500円。ご希望の方はご連絡下さい。

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。